

## D-7 就労形態の相異による母親の教育期待の比較研究(第1報)

福山市立女子短期大学

津川淳

目的、変動社会の中で、生活の基本単位としての家族の就労形態の違いが、母親の  
子供への教育期待にどのような変化を及ぼしているかを職業別に明らかにしていく。

方法、広島県下、福山市を中心とする地域で幼稚園・保育所に通う5・6才児を持つ  
母親に対して、幼稚園・保育所の協力を得て質問紙を配布し、回収を回収集計した。

結果、分析は夫の職業でホワイトカラー、ブルーカラー、サービス業、農林漁業・自  
営に分類した。生活基盤の特徴はホワイトカラーに学歴が高く、次に自営、サービス  
業である。収入は自営、ホワイトカラー、ブルーカラーの順である。妻の職業はホワ  
イトカラーに主婦(無職)が多く、他は共働きが多い。家族規模は自営が最も大きく、  
サービス業が最も小さい。社会意識には差はなく、子供への期待はホワイトカラーに  
子供の内的力動性を重視する傾向が強く、ブルーカラーにはその傾向が弱い。家庭教  
育の意図的側面の観に関して、ホワイトカラーは内的で観の一致度も高く、母親自  
身の手で観ることが多い。他は外的規準を志向し、観の一致度は低くなっている。

就塾状況で不就塾者が多いのはブルーカラーで、ホワイトカラーにはピアリ、サー  
ビス業はオルガンが特徴的である。子供への教育的配慮が高いのはホワイトカラーで  
次はサービス業である。無意図的教育としての子供への接触はブルーカラー、サー  
ビス業に多い。進学期待はホワイトカラーに高く、サービス業に低い。就園理由は内的  
なホワイトカラー、外的はブルーカラー、サービス業に多い。全体的にはホワイトカ  
ラーに子供の個性や能力を重視している傾向が強い。